学長の業績評価書

令和８年 11 月 20 日
横浜市立大学学長選考会議

学長選考会議は、公立大学法人横浜市立学学長選考会議規程第２ 条第１項に基づき、令和６年４月１日以降における、石川　義弘学長の業務執行状況の確認を下記のとおり行った。

【評価方法】

学長選考基準、所信表明及び中期計画の達成状況、自己評価書、学内意見聴取等を踏まえて実施した。

【評価結果】　期待どおり実施している

（学長の業績評価）
期待を大きく上回って実施している、または特筆すべき状況にある/期待を上回って実施している
期待どおり実施している/期待を十分に実施していない/重大な改善事項がある

石川学長は学長としての職責を適切に果たし、本学の発展に向けてリーダーシップを発揮し、教育・研究・医療・法人運営の各分野において着実な成果を挙げているものと評価する。

特に、「研究の横浜市立大学」の実現に向けた J-PEAKS 採択をはじめとする大型外部資金の獲得、産官学連携の推進、研究基盤整備、大学発ベンチャー創出等の取組は、本学の研究力及びプレゼンス向上に大きく寄与しており、研究分野において顕著な成果が認められる。また、データサイエンス分野を中心とした教育改革や大学院教育の充実、病院部門を中心とした経営改善、寄附金獲得及び外部資金拡大などについても着実な成果が認められる。

一方で、所信表明に掲げた事項のうち、臨床研究中核病院への再挑戦、英語教育を含む国際化の取組、若手研究者育成やメンター制度の充実等については、今後更なる成果や取組の深化が期待される。また、法人評価結果においても全体としてはおおむね期待どおりの評価となっている。

なお、学内意見聴取においては、研究力強化や大学のプレゼンス向上、外部資金獲得等の取組を評価する意見が多く見られた一方で、教職員との対話や情報共有の充実、教育と研究のバランスへの配慮、改革を支える現場負担への配慮、さらには次世代を担う人材や後進リーダーの育成を期待する意見も見られた。これらの意見については、今後の大学運営において参考とされることが望まれる。

総じて、学長就任以降、所信表明に掲げた方向性に沿って大学改革を推進し、本学の研究力強化、教育改革、地域貢献及び社会的価値向上に着実な成果を挙げていることは高く評価できる。一方で、所信表明で掲げた取組の一部については発展途上のものも認められることから、学長選考会議としてその業績は「期待どおり実施している」と評価する。

【評価経緯】

令和８年８月７日（金）　業績評価実施通知

令和８年 11 月５日（木）　第２回学長選考会議（自己評価に対する業績評価の審議）

令和８年 11 月 27 日（金）評価結果の公表

【学長選考会議委員】（50 音順）◎は、学長選考会議議長

井伊 雅子　理事、一橋大学　大学院経済研究科　特任教授 / 国際・公共政策大学院　特任教授

遠藤 格　　附属病院長

◎梶原 将　　東京科学大学理事長・学長特別補佐、教授

橘 勝　　副学長

原口 淳　　理事、横浜市立大学後援会　会長

藤井 謙宗　理事、株式会社横浜スタジアム　取締役会長